

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和7年11月5日（水）15:00～15:40

場 所：日本薬剤師会 第一会議室

出 席 者：岩月会長、上野専務理事

内容・提出資料：

1. 新卒薬剤師 初年度会費無料キャンペーン対応に関する令和8年度体制整備について（ご依頼）（令和7年11月4日 日薬発第192号）

上野専務理事より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会では、若年層を中心とした加入勧奨による組織強化等を目的とした、新卒者の初年度会費無料キャンペーンを、令和8年度（令和8年4月1日～令和9年3月31日）に実施する（令和7年5月8日付 日薬発第54号にて予告済み）。キャンペーンの対象は、令和7年度内に薬学部・薬科大学を卒業した者で、薬剤師国家試験に合格し薬剤師免許を取得した者のうち、B会員に限定し、令和8年度中の日本薬剤師会会費（年会費7,000円）を無料とする。

本キャンペーンは、本会、都道府県薬剤師会、地域薬剤師会の連携があつて初めて最大限の効果を発揮する。各薬剤師会における会費の徴収に関する規定の改定なども必要となることから、本キャンペーンの趣旨をご理解いただき、円滑な実施が可能となるよう、令和8年4月に向けた体制整備について、「新卒薬剤師 初年度会費無料キャンペーン対応に関する手順書」やQ&Aを作成し、都道府県薬剤師会、地域薬剤師会に協力を求めたところである。また、キャンペーンの告知用のポスターを本会が作成し、都道府県薬剤師会にデータで提供する準備を進めている。本会のホームページなどで周知を図るほか、各薬学部・薬科大学にも個別に案内する予定である。

主な質疑応答は以下のとおり。

【財政制度等審議会・財政制度分科会の「改革の方向性（案）」について】

記者：本日の財政審の「改革の方向性（案）」に、「薬剤師数の増加に伴い調剤薬局も増加の一途を辿っているが、小規模な施設が乱立し、診療所や病院の近隣に群集する現状は、業界の非効率性を象徴している。今後は、薬局の集約化や大規模化に向けた取組が不可避である。」との記載があるが見解はいかがか。

岩月会長：中小企業は経営効率が悪く、医療財政を圧迫しているとのことだが、中小薬局がないと地域医療を守ることができない。地域医療のために頑張っている薬局があることはご理解いただきたい。薬局・薬剤師数の増加に歯止めがかかるから処方箋枚数が増えるわけではなく、そのことをもって医療財政を圧迫しているという見解には全くもって賛成できない。

【10/24 中医協総会における敷地内薬局の議論について】

記者：森委員の発言により、敷地内薬局の経営がさらに苦しくなるような方向性が示されたことで、他団体との関係性に影響はないか。

岩月会長：本会はこれまで、医薬分業の本質に関わる敷地内薬局については、やめていただきたいと言い続けてきた。森委員は、抜け道があつて敷地内薬局の増加が続くのであれば、グループ減算の検討の可能性もあり得ると発言をしたのみで、直ちに点数を減らすべきといった発言はしていないと承知している。

次回の定例記者会見は、令和7年11月19日（水）15:00～を予定。